

第9期 第3回 外国人市民会議のまとめ

〔日時〕 令和4年(2022年) 3月24日(木曜) 午後7時から午後8時30分

〔会場〕 市役所 第一庁舎 4階第1会議室

〔出席者(敬称略)〕

委員:

- ・ アスマ スルタナ
- ・ 汪 穎
- ・ 片山 フィオナ エリザベス
- ・ 洪 玉英
- ・ フロール カラビア サンティアゴ
- ・ 滝本 クラウディア
- ・ アディカリ スザン バハデュル
- ・ 劉 国相

事務局: 山本人権文化政策監、堀山人権政策課参事兼課長、片岡課長補佐、廣田主査、野邊

〔傍聴者数〕 1名

〔会議内容〕

開会

案件1. 調査研究の結果について

- コロナ禍における外国人市民の生活等への影響に関する調査研究の結果について、資料1「コロナ禍における外国人市民の生活等への影響に関する調査研究報告書(概要版)」を用いて事務局より説明

【以下質疑応答】

- ・ この調査研究で見えてきた内容をもとに、今後市としてどのような動きを考えているのか。

→ (事務局) 調査研究実施にあたって専門部会を立ち上げ、多文化共生に関わる人で委員を構成し調査研究を進めてきた。この専門部会をネットワーク会議に変え、今後の施策を検討していく。

- ・ せんもんぶかい なか けんきゆうしゃ がいこくじん なんにん
専門部会の中に、研究者として外国人は何人いたのか。

→ (事務局) ちゆうごく かんこく いんどねしあ がいこくじん こみゆ に てい だいひょうしゃ きんか
中国、韓国、インドネシアの外国人コミュニティの代表者に参加していただ
いた。ほかに たぶん かきょうせい くわ にほんじん がくしきしやにめい かいちょう ふくかいちょう つと
他に、多文化共生に詳しい日本人の学識者二名に会長、副会長を務めてもらっ
た。

- ・ し じっし ほかに ちょうさ くら ほんちようさけんきゆう あんけーと ゆうこうかいとうりつ たか
市が実施している他の調査と比べて、本調査研究のアンケートの有効回答率は高いか。

→ (事務局) ほんちようさ ゆうこうかいとうりつ し じっし ちょうさけんきゆう へいきんてき こ
本調査の有効回答率は 23.7%。市が実施する調査研究は、平均的に 30%を超
えることが多いが、ぜんこくてき み がいこくじん たい ちょうさけんきゆう なか けつ ひく すうじ
全国的に見た外国人に対する調査研究の中では、決して低い数字では
ない。

- ・ あんけーと たいしやうしゃ えいじゆうしゃ とくべつえいじゆうしゃ のぞ りゆう なに
アンケートの対象者から、永住者・特別永住者を除いた理由は何か。

→ (事務局) ほんちようさけんきゆう ころ なか えいきよう しょうてん あ けんきゆう せんもんぶかい なか けんとう
本調査研究は、コロナ禍の影響に焦点を当てた研究。専門部会の中で検討
した結果、とくべつえいじゆうしゃ にほん せいかつ なした あんけーと
特別永住者は日本の生活に慣れ親しんでいるというところからアンケートでは
のぞ いた。いんたびゆう ちようさ おきな で き とくべつえいじゆうしゃ はなし き
除いた。インタビュー調査ではそこを補うことが出来るように特別永住者にも話を聞い
た。

- ・ にほん ねんいじょうす にほんごけんてい も にほんじん くろう
日本に 20年以上住んでおり、また日本語検定も持っているが、日本人でも苦労するよう
な てつづ えいじゆうしゃ むずか かん えいじゆうしゃ いけん き
手続きなどは永住者であってもより難しく感じることもある。永住者として意見を聴いて
もらいたかった気持ちはある。

あんけん いけんこうかん 案件 2. 意見交換

→ しりょう だい かがいこくじんしみんかいぎもち じむきよく せつめい
資料 2 「第 3 回外国人市民会議について」を用いて、事務局より説明

【以下意見】

『がいこくじんどうし がいこくじん にほんじん じじよこみゆにてい こみゆにてい ひつよう
外国人同士、外国人と日本人の自助コミュニティで、どんなコミュニティが必要か。また、
そのコミュニティを作るにはどうすればいいか。』 について

- ・ す ちいでいる ちいき じちかい こくりゆう まいにち げんご いんふおめーしょんでき
住んでいる地域の自治会や、国流などから、毎日いろんな言語でインフォメーションでき

れば良いと思う。

- ・ 情報を知らない故に援助金を利用できなかったという結果について悲しく思う。その結果を見て、外国人同士、日本人と外国人のコミュニティを強める必要性を改めて強く感じた。また、差別についての結果も見えてきたと思う。どちらも考えなければいけない問題である。

どういふコミュニティをつくるか、という内容についてだが、コミュニティは人間的に自然に生まれてくるものである。それを助けるために、まずは互いに知り合う必要がある。コミュニティを作ることは、押し付けられたコミュニティのあり方になるのではないかと思う。

情報が届いていないという結果については、以前の会議で話題に上がったキーパーソンが大切になってくる。言語によるキーパーソン、地域によるキーパーソン、自治体ごとにあるキーパーソンを置くことで幅広く情報を伝えられるようになる。

国際交流センターの持つ役割は素晴らしいが、施設や市役所で外国人を待つのではなくて、人が住んでいるところに行く必要がある。今あるものを利用して交流の機会を作ればよい。

- ・ 東京都三鷹市の、市民参加でまちづくりという審議会に参加している。1800人の市民に参加応募を送って、400人が登録している。外国人市民会議の拡大版のようなものとして、アンケートの回答をした600数人を集めて様々なトピックで意見を出し合えたらいいと思う。

- ・ 専門部会のような会議には、外国人の専門家が重要だと思う。

昨今、日本社会に外国人が住んでいるという考え方が一般的だと思うが、日本人と外国人が共に生きる社会という認識で、相互文化理解の活動が出来れば良いと思う。

言語ごとのカウンセラーがいれば良いという話は以前したと思うが、そういった人にキーパーソンになってもらえば、情報発信の担い手として様々なことを発信してもらえると思う。

市民同士が接する機会を増やせばいい。

- ・ 兵庫県で外国人に対するコミュニティ活動や支援活動を行っている。しかし、昨今の

コロナの影響でそういったコミュニティが少なくなっているように感じる。

街歩きや地域旅行などは兵庫県では反響が良かった。多文化のプラットフォームを作るといい。

兵庫県では、地域の高齢者イベントを実施。多世代の交流が出来るイベントなどがあればいい。

- 外国人と日本人が近くなれない理由は「恐れ」

武蔵野市の外国人の市民投票権が大きなニュースになったが、その話題の中で、多くの外国人がその地域に引っ越して来たら、その国の人が行政を変えてしまうという話があった。草の根レベル、地域レベルで恐れを無くすためのイベントを実施し、お互いの事を知ることが大事。地域レベルの交流、小規模のグループ単位で国際交流をすればよい。地域のミニオリンピックとかが出来れば。

自分の地域にどれくらいの外国人がいるか知りたい。連絡し合いたい人同士が繋がれるような制度があればいいと思う。知らないから地域の人同士で助け合えないということもあると思う。

自分の子どもについて、学校から不自由が無いか聞かれない。学校にキーパーソンを置き、外国人生徒の事をときどき気にかけてもらうようなことがあればいい。

『現在繋がるが出来ていない外国人に向けて、国際交流協会や外国人団体などの既存のコミュニティにどうつながるか。』について

- 繋がるが出来ていない層が、なぜつながることが出来ないか、在住の期間や環境も含めて、いろんな可能性を考えていく必要がある。

- 生活相談の窓口があっても、信頼感が無いと繋がりがづらいことがある。多くの外国人は、自分の国のコミュニティに繋がっている。

国際交流センターの日本語教室について、繋がりを作ることが出来る場として効果は大きいですが、過程が終わると教室にすることが出来なくなってしまう。将来的には、日本語のうりよく関係なく、また日本人も巻き込んで日本語教室が出来ればよい。

- 市内在住の外国人全員に、郵便で市の外国人相談窓口の通知を送ることは出来ないか。

- ・ SNS を使い、日常的に多言語で情報発信を行う。LINE の公式アカウントなどを活用出来れば良い。
- ・ そもそも、どれほど多くの外国人団体、コミュニティが存在するか、団体同士、コミュニティ同士が分かっていない。団体同士でつながりを作ることは、支援を広げていくうえで重要。外国人が繋がりたいときに、繋がり先が複数ある状態が理想。

あんけん 案件 3. その他

→ 次回会議の日程調整について通知

へいかい
閉会